果実外観に優れる四季成り性イチゴ新品種「山形Ｓ７号」

山形県庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室

研究のねらい

本県のオリジナル四季成り性※1イチゴ品種「サマーティアラ」は、食味に優れるものの、鶏冠果※2や夏季高温による種浮果※3等の障害果が発生するため収量水準が低く、新たな品種が望まれている。そこで、収量性が高く、果実品質に優れる新たな品種を育成した。

研究の成果

① 平成24年度に「サマーティアラ」を種子親、「なつじろう」を花粉親として、育成した。

② 草姿は立性※4で、草勢はやや強い。果実は円錐形でツヤがあり、外観が優れる。そう果※5の落ち込みは「サマーティアラ」より深い（図１、２）。

③ ３月に定植した場合、６月上旬から収穫が可能で、11 月下旬までの 10ａ換算商品収量は4.5ｔであり、「サマーティアラ」より多い（表１）。

④ 鶏冠果や種浮果等の障害果の発生は、「サマーティアラ」より少ない（表２）。

⑤ 高温期（7～9 月）の果実硬度は、「サマーティアラ」より高い（表３）。

※１ 四季成り性：開花結実習性の季性のこと。気温や日長条件に依存しなく開花結実する。
※２ 鶏冠果：鶏のとさか状となる果実。一般に一番果や草勢が強い場合に発生しやすい。
※３ 種浮果：そう果が花たく部より飛び出している状態。一般に草勢低下の際に発生しやすく、品質が劣る。
※４ 立性：株全体の葉が開く草姿の程度のこと。開く程度が小さいものから順に、立性、中間、開張性と区分される。
※５ そう果：花たく部に着生している果実。俗称として、花たく部は「果肉」、そう果は「種」と呼ばれている。

表1 商品収量　　1区8株2反復

品種名	定植日（月/日）	収穫期間（月/日）	商品収量(g/株) 6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計	10a換算商品収量(t/10a)	平均1果重(g)
山形S7号z)	3/22	6/8～11/22	83	167	140	154	140	89	774	4.5	11.8
サマーティアラ			71	130	90	71	85	99	548	3.2	12.4

z)株当たり花房数を3本、1花房当たり果実数を3果に制限した(6/27～8/23)
※ 給液EC:9/25までは0.3～0.6dS/m、9/26以降は 1.0dS/m、10/13以降は1.3dS/mで管理。　クラウン冷却:6/21～9/20

表2 障害果の発生割合(%)

品種名	鶏冠果	種浮果	受精不良果	先詰果	先白果	その他z)	合計
山形S7号	0.4	0.1	5.8	0.0	0.3	0.9	7.4
サマーティアラ	4.6	7.7	6.0	0.3	1.0	0.3	19.9

※ 株当たり総収穫個数に対する割合　z)病害虫被害果、みぞ果等

表3 果実品質　　10果/月調査

品種名	硬度z)(kg/3mmφ) 6月	7月	8月	9月	10月	11月	糖度y)(° Brix)	酸度x)(%)
山形S7号	0.30	0.32	0.32	0.35	0.29	0.29	7.6	0.78
サマーティアラ	0.29	0.19	0.27	0.27	0.24	0.29	8.6	0.85

z)藤原果実硬度計KM-1(針頭:円筒形、3mm径、10mm高)で測定
y)ATAGO PR-101で測定 、6～11月の平均値
x)滴定酸度クエン酸換算値(採取果汁1ml、0.1N-NaOH(1ml=0.0064gクエン酸)で滴定)
6～11月の平均値

図１　草姿（撮影：R4 年７月４日）

図２　果実外観

問い合わせ先：園芸研究担当　℡：0234-91-1250　e-mail：yshonaisanchi@pref.yamagata.jp